

# 学校便り 10月号

令和7年10月1日発行

和歌山市立岡崎小学校

## 学 校 長

朝夕涼しくなり、虫の声も聞こえるようになってきました。日中も、暑さ指数が厳重警戒を下回る事が多くなり、教室で過ごすことがほとんどだった子どもたちの声が、運動場に、校庭に、もどってきました。

先日の朝、挨拶運動に向かおうと中庭を歩いていると、低学年の子どもが2・3人集まっていた。何をしているのか声をかけると、葉を作っているとのことでした。テレビで、無人島にいる人が作っていたので、自分たちも作っているという理由も教えてくれました。平たく大きな石に葉をのせて、すりつぶすのに、ちょうどいい木を見つけ、一所懸命に葉をすりつぶしている姿は、真剣そのものでした。



児童会の朝の挨拶運動も、2学期も続いています。また、8時15分になると、5分前行動のために運動場で遊んでいる子たちに、休憩終わりの合図もしてくれています。子どもたちが自分たちでルールを守る意識がより高まっているのを感じます。

9月24日には、2年1組が、研究授業を行いました。道徳で「くりのみ」というお話の授業でした。「きつねはなぜないてるんだろう。」という教師の問いかけに、「うさぎさんが親切だったから。」「2つしかないくりを、うさぎさんはくれたんやなど、きつねさんが思ったから。」等の意見が出されました。

お話の続きを考える場面では、「うさぎさんに、くりをもらったから、きつねさんは、どんぐりを隠していることを言ったと思う。その後、隠していたどんぐりを半分こして、一緒に食べた。」「町中の人に1個ずつどんぐりをあげた。」等の意見が出されていました。嘘をついたことを正直に話すことでも難しいことなのに、その後、どんぐりをみんなに1つずつ配るという考えは私にはないものでした。子どもたちから、また1つ、学んだ瞬間でした。

このように、自分たちで学ぼう、自分たちで行動しようとする姿勢が、岡崎小学校にあふれているのを感じる毎日です。

### あらすじ「くりのみ」

北風のふいている原っぱで、きつねがうさぎに出会いました。どちらも食べ物を探しに行く途中でした。挨拶を交わし別れた後、きつねはたくさんのどんぐりを見つけました。お腹いっぱい食べたきつねは、残りを落ち葉で隠しました。帰る途中、また、うさぎに出会いました。うさぎに、食べ物が見つかったか聞かれたきつねは、何も見つけることができなかつたと嘘をつきます。きつねを、気の毒に思ったうさぎは、やっと見つけた2つのくりの1つを、きつねに差し出したのです。そのくりを見ているうちに、きつねの目から涙がこぼれました。